

『これくらい症候群』と『あれくらい症候群』

次の文章は、私が、30年前の“学級便り”(中学1年生向け)に載せたものです。

1年3組 学級だより「主人公」より

○ 恐ろしい『これくらい症候群』

チャイム着席くらい(しなくても)・・・ たまには忘れ物くらい・・・
授業中も少しならおしゃべりくらい・・・ 掃除もちょっとサボるくらい・・・

「これくらいは、どうってことないや」「これくらいは、先生も大目にみてるだろう」といった調子の人が増えてきていませんか？

「これくらいはいいだろう・・・」が口癖になってしまった人は、『これくらい症候群』と呼ばれる恐ろしい病(やまい)にかかっているのでは？ この病にかかると、生活すべての面において「これくらいは・・・」「これくらいは・・・」で、自分に甘く、自分がどんどん駄目になっていくような気がします。

○ もっと恐ろしい『あれくらい症候群』

実は、もっと恐ろしいのが『あれくらい症候群』です。

授業中に少しおしゃべりをしている友達がいても、掃除をしない友達がいても、時々宿題を忘れる友達がいても、「ま～、あれくらいはいいか」と見て見ぬふり、注意もしない、気にもならない。

さらには、「先生もあれくらいのことで怒らなくてもいいのに、〇〇さんが可哀想・・・」とこうなったら感覚の麻痺が起きているのではないのでしょうか。

○ 小さなことこそ大切に！

「これくらいは・・・」「あれくらいは・・・」「たかが・・・」、こうした考え方はとても危険です。小さな、些細なこともできないで、何ができるのでしょうか。

良きにつけ悪しきにつけ、「これくらい」を馬鹿にしないで、守るべきことは守るし、やるべきことはやる。その積み重ねが、人間を大きく成長させていくのだと思います。

「これくらい あれくらい症候群」にかからないように、今が大事です。この2学期、多彩な活動を通して、みんながどのくらい成長していくか、とても楽しみです。

(以下は、以前、玉小の「校長だより」に載せた文書です)

さて、私たち大人はどうでしょうか？ 「これくらい・・・」「あれくらい・・・」と、小さなことを軽んじてしまうことは、誰にもあることだと思います。しかし、子供の教育に直接関わる大人(教員)として、自分に厳しく、そして子供たちに甘くならないように心掛けたいものです。

たくさんのお褒めの言葉を頂いた運動会アンケートの中に、次のような御意見がありました。

- ・ 校門付近での側溝にタバコを捨てていたり、缶の中にタバコを入れてそれを放置していたり、一部の大人のマナーが非常に悪く感じました。
- ・ 前日の学校メールで、シートの上のテーブルや椅子、日傘やパラソルなど、観覧される方の迷惑にならないようにとの注意があったにもかかわらず、守れない方がいました。

これらは、ほんの一例だと思います。子供たちが見ています。学校の教職員も保護者も、子供たちにとってのお手本です。「これくらい」を侮ることなく、子供たちに範を示していきたいと思っています。